

学校運営協議会① 令和6年4月26日(金) 19:00～ 第二図書館(敬称略)

<学校長挨拶>

- ・学校目標、well-being、縄文プランについて
- ・学校運営委員会の会長の互選。伊藤良人さんが会長、長田秀子さんが副会長。

全員：(賛同)

<意見交換>

Q：ゆとり教育は間違っていたのか

校長：そうではない。教えるものがたくさんありすぎると教え込みになる。テストはできても新たなことを生み出せなくなっている。また、子どもたちも多様になっている。

教頭：「well」とは、いい状況のこと、「being」とは、今の状態のこと。心身共に満足できることが今もある、という状況が続いていることが「well-being」。今ある姿を大事にしている。

望月：日本の教育は揺れ戻しが大きい。ゆとり世代は、自由な教育をしていた。今目指すような大人になっている。

田中：世の中が多様になり、先生方が大変になっている。一緒に進めない子のケアが必要。非常に良い学校目標だと思う。

植田：日本人は自己決定ができない。会社でもだれが決めるか分からないから商品を出すのが遅れる。自己決定はとても大切。

望月：意見表明できるか。自分の意見をもつことが大事。

伊藤：世界で活躍し、世界で戦っていくには自己表現が必要。日本語は言葉が豊かだから言葉で伝えようとするが、英語はボディランゲージが必要になる。自己表現ができる子どもたちを育てて欲しい。

白川：高校入試に漢字の問題がほとんど出ない、という話があるが、書けなくても入力時に変換を間違えなければ良いという時代だが、これでいいのか。

校長：これから入試などのテストはタブレット等の入力形式になっていくのではないか。

白川：文化はどうなのか。大事なことが失われているのではないか。

望月：そのうちタブレットもなくなって、メガネのようにかければOKとか、タッチすることもなくなるのではないか。どれだけ独自の文化を残せるか。

教頭：教科で残るのは芸術的なもの。英語はなくなりそうだが、目標はコミュニケーション能力を育てること。

<学有林ボランティアについて>

校長：学有林ボランティアは学有林作業の手伝いや学有林体験の補助などが主な活動。ボランティアを増やしたいが難しい。PTAの中から有志が何人か出るのが望ましいが

日々忙しいから、PTA 評議員を学有林ボランティアとして、6 年生の体験活動の時に何人かいける人が行けばよい、としたらどうか。

望月：コロナ禍以前は、PTA 評議員がたくさんいたのか

校長：現在も PTA 評議員は、70 名ほどいる。

田中：PTA から依頼があれば、オヤジの会が組織として参加する。

白川：60 年前は、学有林に野菜や味噌などを持っていき、きのこ汁を作って食べた。

財産区に依頼すると良い。

校長：PTA 評議員を学有林ボランティアとすればいいのではないか

全員：(その意見に賛同)

<諸連絡(教頭)>

- ・参観日に来たときには子どもの様子を見ていただきたい。
- ・5/7~10 の読書参観でも子どもの様子を見ていただきたい。

<会長挨拶>

- ・150 周年記念誌が配付されて「なぜうちに？」という声もあったが、区民のみなさんにお祝いしていただきたいという校長先生からの願いもあって、全戸配付にした。
- ・コロナが5類になって1年。コロナ前を思い出していく。子どもが元気で活躍できる場にしていきたい。